

3 地域連携



当院は庄内地域周辺の急性期医療、高度医療、救急医療を担い、平均在院日数11.4日の地域の中核病院です。医療の機能分化が進む中、地域連携がますます重要となってきました。当院では2011年から、ITを利用した医療情報システム（以下、 चौかいネット）を導入し、地域連携の重要ツールとして、自宅退院、転院、地域連携パスなど幅広く活用しています。

平成24年度の診療報酬改定では、退院調整部門と病棟看護師との協働する体制が明

確に打ち出されたことから、病棟看護師だけでなく病棟事務クランク、病棟看護事務補助も巻き込んだ運用を整備しました。忙しい病棟看護師が患者家族に支援し、必要書類作成から算定まで運用を定着できたのは、病棟看護事務補助や事務クランクの力が大きな成功要因であり、チーム医療にとって事務職員は欠かせない存在だと感じていました。

そして昨年10月、医事課体制を強化し、新たに医事課分室が新設されました（写真

●病院概要

名 称：地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構
日本海総合病院

所在地：山形県酒田市あきほ町30

T E L：0234-26-2001

標榜科：25科

病床数：646床（一般病床642床、感染病床4床）

地域医療支援病院 がん診療連携拠点病院

U R L：<http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/>



写真1 医事課分室



写真2 地域医療室



1)。その中に地域連携担当者が配置されたことをきっかけに、担当者の負担が大きかった病診連携“がん地域連携パス”の運用を中心に業務改善に取り組みました。

1. 取り組んだ背景

地域連携パスやちょうかいネット使用件数は年々増加しており（図表1）、医療の標準化や情報共有ツールとして重要な役割となっています。しかし、地域連携パスについては本来の業務である患者家族のセルフケア支援や共同診療に対する理解、連携医療機関とのコーディネート以外の事務的な作業が多いという問題が担当者から上がっていました。

具体的には郵送・FAX・電話など従来の情報共有の方法から、ITを活用した方

図表1 地域連携パス件数（平成26年1月から前立腺がん地域連携パスが開始）

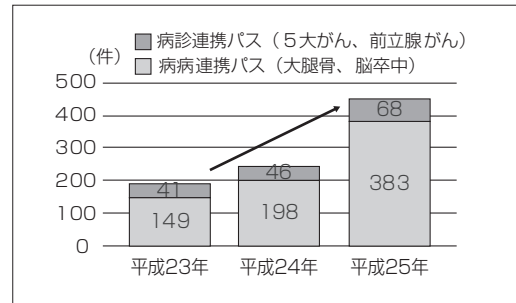


写真3 医療連携室



法となり、それに伴い、地域連携パスの管理病院としてのデータ管理や共同診療計画表等のネットワークへのアップロードなど効率化の半面、担当者の事務的な業務の割合が増えていました。

これまでは、主に退院調整看護師や社会福祉士が担ってきましたが、本来の業務である退院調整や相談支援に専門性を発揮できるよう、業務改善の必要を感じていました。

2. 地域連携部門の紹介

地域連携を担当する部門は、主に退院調整を担当する地域医療室（写真2）と医療福祉相談を担当する医療連携室（写真3）の二つの部門があります（以下、地域連携担当部門）。

図表2 地域連携担当部門の紹介

部署名	職種・人数	業務内容
地域医療室	看護師6名 緩和ケア認定 看護師1名	退院調整 (地域連携パス 含む) 訪問看護 在宅医療相談・ 介護相談・がん 相談
医療連携室	社会福祉士3 名	医療福祉相談・ がん相談 退院調整(地域 連携パス・困難 事例対応) 受診・転院受け 入れ

3年前から同室で仕事をするようになり、互いの専門性を生かしながら患者支援や相談対応を行っています。地域医療室では5名の看護師が一人につき2～3病棟担当し、退院調整を行っています。

高齢化に伴い独居や高齢世帯が増え退院調整が難しい患者が増えており、社会福祉士と協力しながら調整に当たる場面が増えてきました。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、がん相談支援センターとしてまた医療相談、介護福祉相談など患者家族の相談窓口部門となっています。

地域医療室と医療連携室の部門の構成メンバーと主な業務内容は図表2に示すとおりです。

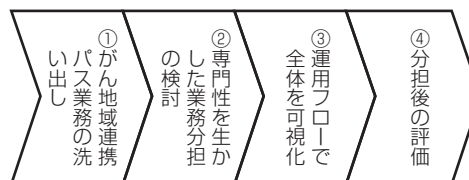
3. 医事課分室の新設

医事業務が複雑多様化していく中、近年、業務を院内多職種でかわり合うことの大切さや診療報酬請求事務に強い医事課

図表3 新しい医事課分室

診療情報請求・ 充実チーム	・退院サマリのチェック ・DPCの分析 など
データベース チーム	・医療情報の収集、提供 ・日々の患者動態 など
地域連携チーム	・地域連携パス ・パス委員会 など

図表4 4つの手順



職員の育成が必要だったことから、診療情報管理士2名を含む10名で医事課分室を新設しました。

この医事課分室は「診療情報請求・充実チーム」「データベースチーム」「地域連携チーム」の3チームでスタートし、構成および主な業務は、図表3に示しているとおりです。まだまだ、発展途上ですが少しずつ成果が上がっています。

4. 業務分担の取り組み

業務分担は図表4の4つの手順で進めました。

(1) 手順1

がん地域連携パスの通常業務の内容を詳細に洗い出し、患者一人の所要時間を分単位にまとめました(図表5)。「連携業務」「患者記録」「患者対応」「事務的業務」に分類すると、約6割が「事務的業務」が占めていました。これまでは、事務的業務が増えているという漠然としたものでした

図表5 がん地域連携パス業務の洗い出し

がん地域連携パスの通常業務内容	1人に要する時間（分）	業務分類
連携医療機関に依頼の電話連絡	3	連携業務
未登録医療機関への地域連携パスの説明	15	
連携パス患者情報シートの記録	5	記録
面談（地域連携パス・私のカルテの説明）	20	相談対応
かかりつけ医に移行時する時の説明	10	
がん地域連携パス共同診療計画表出力	5	事務的業務 89分／142分 約6割
「私のカルテ」作成	15	
ちょうかいネット利用の説明と同意書作成	5	
ちょうかいネットに必要書類のアップロード	15	
ちょうかいネット未参加施設に説明と書類送付	10	
かかりつけ医に初回依頼の連絡とFAX	10	
かかりつけ医に移行依頼の連絡とFAX	5	
診療情報提供書の作成確認と郵送	1	
連携医療機関からのがん地域連携報告書の処理	3	
受診状況の確認とデータ管理（中断患者の予防）	20	
合計	142	

が、数値化したことで業務改善の目的が明確になりました。

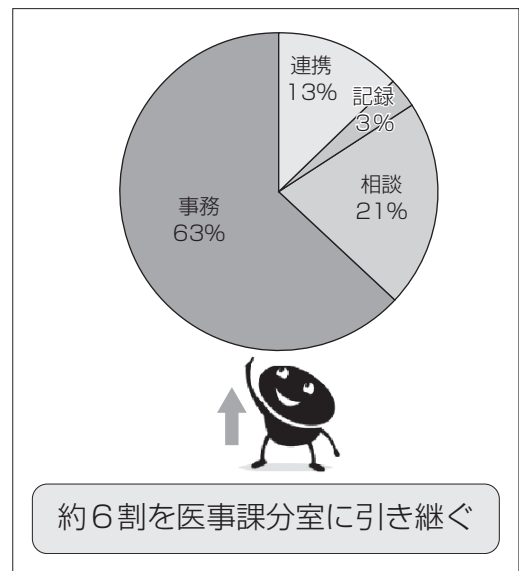
(2) 手順2

看護師や社会福祉士と医事課分室の専門性が発揮できる業務分担を検討しました。医事課分室は新たな部門であり、現段階で協同できること、できないことを話し合い、業務分担の基本的な考えを統一しています。

その結果、患者家族の対応（患者説明・記録）と医師の窓口は、地域連携部門の看護師や社会福祉士が担当することにしました（図表6）。

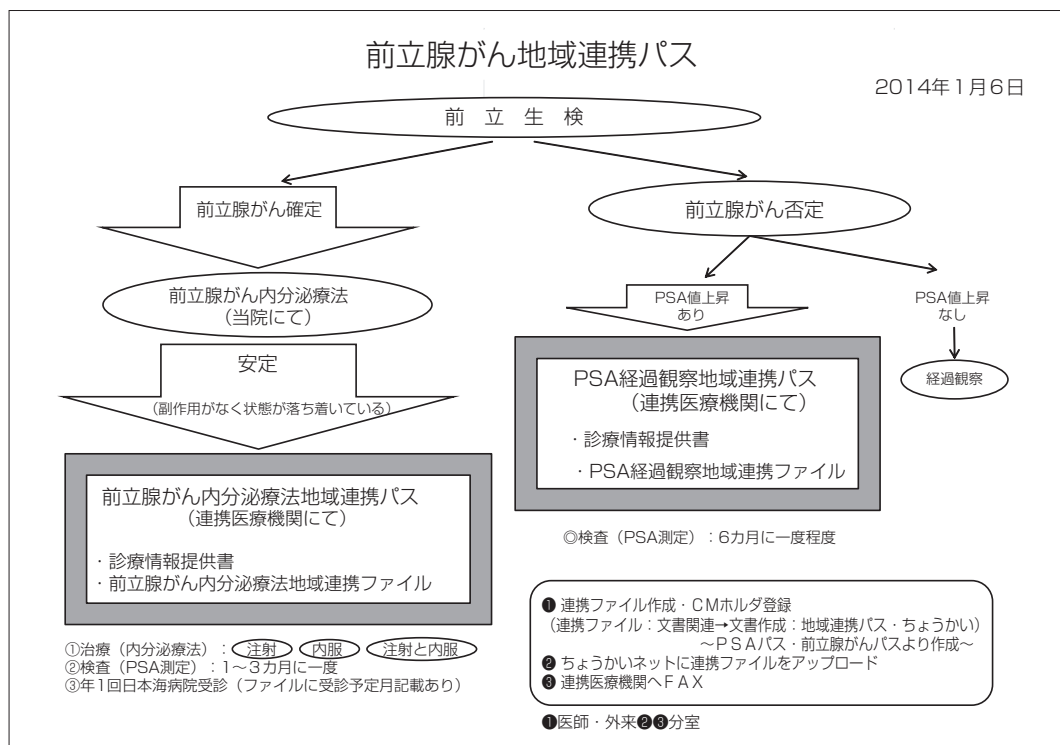
「事務作業」の内容を医事課分室に引き継いだことにより、地域連携部門の通常業

図表6 分類した業務の割合



務が整理され、患者一人当たり89分時間が短縮されることになりました。

図表7-1 運用フロー1



(3) 手順3

運用フローを作成し、業務の流れ全体を可視化しました (図表7-1)。これまでは地域連携部門で完結していた業務を医事課分室と分担することにより、患者、連携医療機関、医師や看護師などの動線が混乱しないように十分注意しなければならないと考えました。すでに定着している流れをできるだけ変えないように、また連携が滞らないように運用フローを作成し役割を可視化しています (図表7-2)。

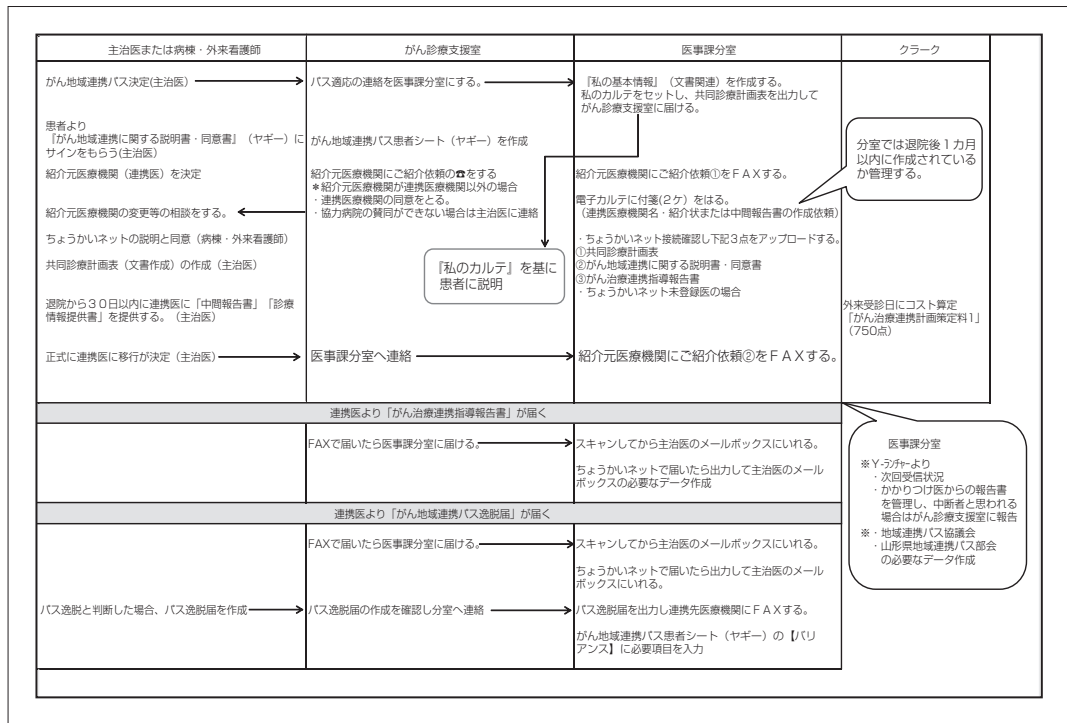
(4) 手順4

医事課分室に業務分担後の評価目的で、約1カ月後に業務量を再調査したところ、医事課分室に引き継いだ業務の所要時間が、地域連携担当部門が要した時間よりもさらに短くなっていることが分かりまし

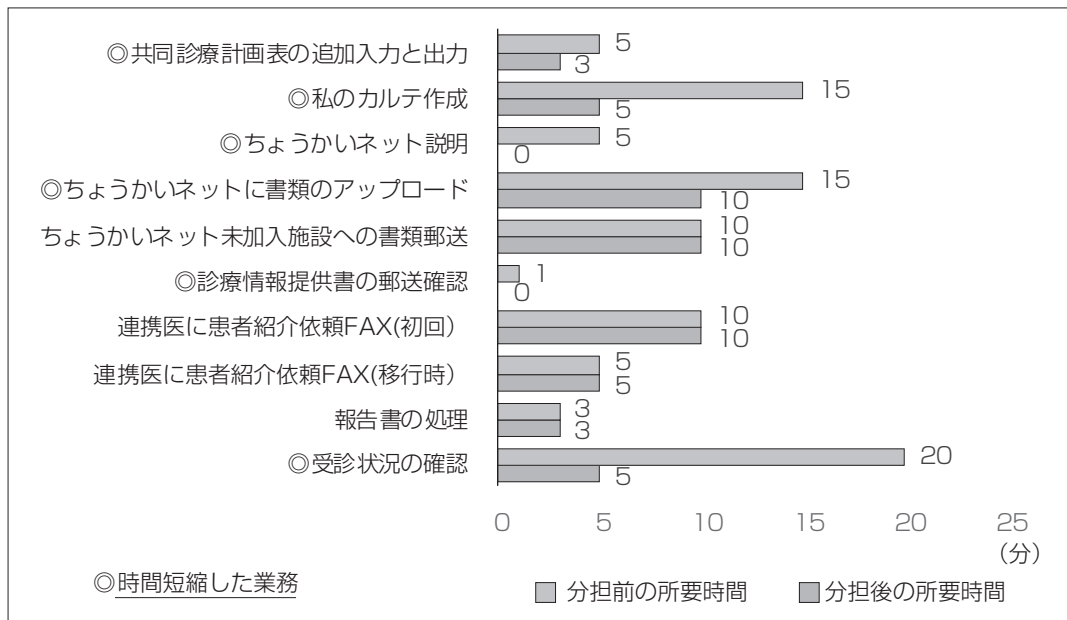
た。共同診療計画表の追加入力と出力2分短縮、「私のカルテ」作成10分短縮 (「私のカルテ」とは、地域連携パスで連携した患者さんの自己管理ノート)、ちょうかいネット説明5分短縮、ちょうかいネットに書類のアップロード5分短縮、受診状況の確認15分短縮されています。分担前と分担後を比較すると患者一人当たり、合計37分業務時間が短縮されました (図表8)。

さらに時間が短縮した要因として、①特化した部門であり、看護師や社会福祉士と違い作業が中断しないこと、②データを電子化し効率的に処理し、手作業を減らしたこと、③差し込み文書機能を利用し、ワンクリックで入力できるように簡略化したこと、④連携医が可能な検査 (内視鏡など) を考慮した依頼文をパターン化し、ファイ

図表 7-2 運用フロー2



図表 8 医事課分室に引継ぎ後の患者一人当たりの所要時間調査



ル化したことが挙げられます。業務を引き継いだ後、医事課分室が専門性を発揮し、

地域連携部門にはなかった新たな発想で業務改善に取り組んでいました。

図表9 その他に分担した内容

項目	分担した業務内容
地域連携パス協議会事務局 ・ 5大がん地域連携パス ・ 前立腺がん地域連携パス ・ 大腿骨地域連携パス ・ 脳卒中地域連携パス	1. 地域連携パスのデータ管理 2. 地域連携パスメンバーの求めに応じたデータの提出 3. 協議会のスケジュール管理 4. 協議会案内配布、資料の作成、報告書等の配信 5. 共同診療計画表や私のカルテ等の修正・雛形管理・配信 6. 連携医療機関からの意見を集約する窓口 7. ICTを活用したシステムの改善 8. 連携医療機関から届いた報告書の管理
退院支援関連	1. 退院支援関連書類の算定要件の漏れを確認し病棟に連絡 2. 介護連携指導書の記載状況をチェック 3. 介護連携指導の算定要件である「ケアプラン」の受け取りの有無を、退院後に追跡調査
ちょうかいネット関連	ちょうかいネット上で連携医療機関から届く報告メールを主治医に配信

5. がん地域連携パス以外で業務分担した内容

医事課分室の新設を機に、がん地域連携パスの事務作業だけでなく地域連携パスの事務局として協議会スケジュールやデータ管理、退院支援関連書類の管理なども分担することができました（図表9）。

6. 考察

地域連携担当部門の看護師や社会福祉士はその専門性を発揮し、個々の患者にとって最善の支援をしなければならないと考えます。治療していた病院から別の医療機関を紹介されるときに生じる患者の不安に対し、十分な説明や支援、そして紹介後も自己中断しないようなかわりに取り組む役割があります。チーム医療を考えると、医療職が十分な力を発揮できる環境整備が必要であり、院内の医療職と事務職の協働が重要な鍵になると思われます。この取り

組みを通し、他部門、多職種との業務改善に取り組むときに重要なことは、単純に業務分担するのではなく、互いの専門性を尊重し、信頼関係を築くことであり、何よりもチーム医療を効果的にしたのではないかと考えます。

また、医事課分室が連携全体の動きを理解したうえでチーム医療に参加したことで、新たな改善案の提案につながりました。部署や人材の専門性を生かして業務分担したことが、業務効率を上げた要因だったと実感しています。

7. おわりに

医療職が専門性を発揮できる環境を整えるには、事務職との協働体制は非常に重要であることを再確認しました。今後も医事課分室の専門性を生かした役割拡大を検討しながら、地域連携部門の業務の効率化を目指していきたいと思っています。